

商業

教 科	科 目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
商 業	簿 記	4	2年次・C群	選 択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
新簿記（実教出版）		標準検定簿記問題集 全商3級 標準検定簿記問題集 全商2級 （東京法令出版）		商業系列の履修者

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

学 習 の 年 間 計 画	学 期	学 習 内 容（単元・項目）		月	学 習 の ね ら い	評 価 の 観 点
	1	第1編 簿記の基礎	第1章 簿記の基礎 第2章 資産・負債・純資産と貸借対照表 第3章 収益・費用と損益計算書 第4章 取引と勘定 第5章 仕訳と転記 第6章 仕訳帳と総勘定元帳 第7章 試算表 第8章 精算表 第9章 決算	4 5	・簿記の意味、目的、役立ちなどを理解させ、学習の心構えを養う。 ・資産・負債・純資産・収益・費用のそれぞれの意味と種類を理解する。	1 2 3 2 3
	2	第2編 取引の記帳(その1)	第10章 現金・預金などの取引 第11章 商品売買の取引 第12章 掛け取引 第13章 手形の取引 第14章 その他の債権・債務の取引 第15章 固定資産の取引 第16章 個人企業の資本の取引 第17章 販売費と一般管理費、税金の取引	6 7	・現金、当座預金、その他の預金の意味を理解する。 ・3分法による商品売買損益の計算法と記帳法を習得する。	1 2 1 3
	3	第3章 決算(その1)	第18章 決算整理（その1） 第19章 8桁精算表 第20章 帳簿決算	9 10	・決算整理の意味を知り、帳簿決算の方法や決算に必要な貸借対照表と損益計算書の作成方法を習得する。	1 2
	4	第4章 会計帳簿と帳簿組織	第21章 会計帳簿 第22章 伝票の整理 第23章 会計ソフトウェアの活用	11	・複式簿記の種類、帳簿組織の業務の分担を学習し、各種帳簿の形式を習得する。	1 2 3
	5	第5章 取引の記帳(その2)	第24章 特殊な手形の取引 第25章 有価証券の取引 第26章 本支店会計 第27章 最近の実務に広がる取引	12	・支店会計の意味を理解させ、本支店間および支店相互間の取引の記帳法を理解する。 ・未達事項の意味と、その整理法を理解	1 2 3 1 2 3

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

					させる。	
	3 学 期	第6章 決算(その2)	第28章 決算整理 (その2) 第29章 株式会社の取引と財務諸表	1 2 3	・間接法による減価償却の記帳や有価証券の評価など、より進んだ決算整理について理解する。	1 2 3
学 習 評 価	観点	1. 知識・技能		2. 思考・判断・表現		3. 主体的に学習に取り組む態度
	規 準	○企業において日常発生する取引を合理的・能率的に記帳できるようにする。 ○簿記の基本的な仕組みについて、記帳練習を通して理解を深める。		○仕訳において、状況にあった勘定科目を使用し、帳簿に正しく記帳する。		○観点別学習状況の評価を通してはかる。 ○ノートやレポート、提出物等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒の自己評価等の状況も評価に当たって考慮する内容とする。
	手 段	・小テスト ・定期考査 ・検定試験		・小テスト ・定期考査 ・検定試験		・授業中の活動 ・提出物
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		・考査は年5回実施。各回とも考査点70%、平常点30%で成績を評価する。 ・平常点は、授業態度、提出物の状況、検定試験の結果による。			
	学習上の 留意点	・授業の進度が速いので、毎時間の授業を大切に学習し、宿題等与えられた課題を必ずすること。 ・検定前や長期休業中の補習に欠席、遅刻をしないこと。 ・1月(全商)の検定試験で2級の合格を目指します。 ・問題集代、検定代金等で年間3,000円程度必要です。				